【第１分科会】教育課程に関する課題

提言１ 研究主題	ふるさと「さが」を協働でつくる個性と創造性に富む人づくりを目指した教育課程 ～佐賀市の教育施策に基づく小中学校の取組～
提言者	佐賀市立北川副小学校　教頭　森　隆久
協議の柱	地域の特色を生かした教育課程の充実に向けて、副校長・教頭としてどのようにかかわっていけばよいか
協議内容	・地区に小中共通の地域コーディネーターがいるが、同じ方がずっとされていて、世代交代がうまくすすんでいない。次の方が決まるのか、途絶えてしまうのではないかという課題がある。 ・地域が高齢化してきて交代ができていない。校長、教頭が地域と連携しながらコーディネートしていくのが課題である。 ・教頭は１～２年でかわる。地域とのつながりの継続性が課題である。 ・地域との窓口となるのが教頭の役割である。 ・教育課程は教務と教頭の連携が大切である。 ・地域の学習会には、地域のボランティアが６０名位来られる。調整するのが教頭の役割である。 ・幼保こ小連携は、教務、主幹教諭と連携し、連絡調整をしながらコーディネートする役割である。 ・校長は、子どもに地域の歴史を伝え、地域の愛着を伝えたいと思っている。教育課程に位置付けているが若手と温度差がある。校長の考えを職員に周知させていくのが教頭の役割である。 ・地域と合同開催の運動会がコロナ後再開した。若手の中には必要性を感じていない職員もいたが、「やってみたらよかった」という意見があった。「不易と流行」というが、なんでも無くすのではなく、よいものは精選して残していくのが教頭の役割である。 ・職員も入れ替わるので、地域の人材資源等を伝えていく役割がある。 ・アフターコロナで行事等の来賓数を縮小する際、これまでのつながりを大事にしながら縮小している。
提言２ 研究主題	義務教育学校９年間の良さを生かした魅力ある学校づくりに向けて ～教育課程の充実に向けた教頭の関わりを通して～
提言者	多久市立東原庠舎中央校　教頭　松瀬　清朗
協議の柱	小中連携等、異校種間の連携の際、副校長・教頭として、どのように関わっていけばよいか
協議内容	・乗り入れ授業について：後期課程から前期課程の場合、先生方の配置により、実現可能な場合と難しい場合が年度によって変わるため、調整が難しい。前期課程から後期課程の場合、持ち授業時数が多い上、学級を空けてまで、乗り入れをすることにためらいがある。 ・時間割作成について：前期課程から後期課程へは、免許外の教科はできないため、Ｔ２で教科へ入る。または、特別支援学級への乗り入れを実施している。 ・１単位時間の違い（４５分と５０分）について：開始時刻や終了時刻を５分ずらすことで、開始と終了が合う時刻を設定し、休み時間の長さで調整している。 ・部活動の指導について：前期課程の先生方の関わり方は学校によって違い、部活動の指導には関わっていなかったり、専門の力を持った職員が部活動指導に関わっていたりする。 ・前期課程・後期課程の９年間を４年３年２年と分けているが、教頭としての分担は、職員の服

	務や相談に対しては、分け隔てなく関わっている。事務的業務は、前期課程・後期課程で分けているが、できるものはお互いに補っている。校外文書と校内文書で、分担している義務教育学校もある。
指導助言者	学校教育課　主幹　浦　貴仁
助言内容	１　地域との連携 ○社会に開かれた教育課程の推進 ○全国学習状況調査質問事項では、社会に開かれた教育課程に対して、児童及び教師の肯定的意見が、全国平均を上回っている。 ○配慮事項 ・目的を明確にする ・連携は「手段」である ・目指したい子どもの姿は・・・ ・負担軽減は図られているか ・「成果」に基づいて随時検証を図る。 ・お互いにメリットがあるか ・学校課題に対応できる連携か ・持続可能な仕組みか ・当事者意識を持っているか ○地域と学校の協働体制の段階　レベル５まで考えられるが、３までは連携を深めたい。 ①情報交換、交流　②学校から地域へお願いする関係（垂直的関係） ③育てたい生徒像を共有し成長させる（水平的関係） ２　幼保こ・小連携 ○小学校１５５校、幼保こ４３８園と数やその考え方に開きがあり合わせていくことが困難 ○幼保こ小の架け橋プログラムの推進　　架け橋期：年長４月～１年生３月 連携をすることで話し合いを通して目指す方向性を共有していくことを重視 情報交換の場になるだけでなく、学びに目を向けた話し合いの場にしてほしい。 ３　小中学校の連携 ○義務教育学校６校、小中一貫校１８校 ○県の取り組みからの成果 ・目指す子ども像の共有が共通指導の視点を明確にすることで授業改善にも取り組めた。 ・授業公開により指導力が向上し組織力も高めている。 ・小中の取り組みの統一により、家庭の理解・協力も得られ、生徒の安心した生活へつながった。 ○連携のレベル①生徒指導・安全管理での連携　②学校行事での連携 ③総合学習・特別活動・道徳等での連携　④一部教科の連携　⑤全教科の連携 ＜まとめ＞ 副校長・教頭の役割　＝　組織を機能させるコーディネート ・形骸化しないように　・取り組みの質的改善　・情報収集、情報提供 ・データを根拠に提案や説明を行うことで納得と理解を　・成果に目を向けた組織づくりを ・負担軽減することを大切に（スクラップ＆ビルドで） ・型（かた）　→　観（教育観や理念）を大切に